

式 辞

卒業生の皆さん、本日晴れて卒業を迎えることを心よりお祝い申し上げます。そして、卒業生の皆さんを支えてきたご家族の皆さん、および関係者の方々にもお慶び申し上げます。

本日、この慶びの場所で、卒業生の皆さんは何を思われ、感じていらっしゃるのでしょうか。4年前の入学式の日自分と比べてみて、大きな違いに気づかれているのではないのでしょうか。4年間の勉学や課外活動での日々の努力、緑豊かなキャンパスの中で育ててきた友情、先生や先輩からの時に厳しくも温かな指導、同級生との切磋琢磨など、思い出は数えきれないことかと思えます。そうした大学での生活を通して、学問の意味を理解しただけではなく、自分で考え、行動する力が身についたはずです。社会に巣立つ皆さんも、大学院へ進学する皆さんも、この大学時代に得た多くの有形、無形の財産を大切に、今後さらに飛躍し、発展することを期待しています。

新たな旅立ちを迎えた皆さんに、幾つかの言葉や考え方を贈ります。

最初は、本学の建学の理念から、「不断の改革」という言葉です。本学は前身校からの長い歴史と伝統を継承しながら、いわゆる「新構想大学」という言葉で表現される従来の大学とは異なる新しい考え方に基づいて、教育、研究、大学運営を進めてきました。専門分野のみならず幅広い教養を身につけることにより、多様な価値観を尊重し、新しいことに挑戦する柔軟な精神や文武両道の精神を培ってきました。しかし、そこに留まっているだけでは筑波大学らしくありません。建学の理念の中に謳われているとおり、さらに新たなスタイルの大学を目指して改革を進めようとしています。そのキーワードは我々が創造する未来の視点です。つまり、IMAGINE THE FUTURE. です。ヒトと地球にとって豊かな未来を想像、すなわち imagine しなければ、未来を創造すなわち create できません。過去のしがらみから離れて柔軟に、主体的に考え、必要な時には躊躇せず改革・革新を進めることが必要です。筑波大学だけではなく、この大学を巣立つ皆さんが社会の中で活動する時に、是非とも思い出していただきたい言葉です。

次は、「地球規模」という視点です。科学と技術の進歩は、社会に大きな発展をもたらしてきました。しかし、一方で数多くの問題をも発生させてきました。エネルギー・資源に関する問題、産業・経済の活性化の問題、食料、少子高齢化の問題を含む人口構成、雇用の問題を含む格差社会の問題などの種々の問題です。このような問題や事態の打開を図るために、いろいろな分野で、問題解決の方策を探し、新たな成長を生み出そうとする必死の努力が進められています。これらの問題と問題解決を考える時、さらに重要な点は、問題を地球規模で共有し、解決に向けた活路を地球と地球社会の一員としての自覚を持ちながら、見いだして行かなければならないということです。しかし現在までのところ、残念ながら個別の人、社会などの利害調整のために身動きが取れないという人間社会の限界が見える場合も少なくありません。従来のシステムに疑問を持ち、思い込みを捨て、自律的に柔軟に考え、イノベーションを創出する私たち個々のモチベーションが問われています。そして、私たちが挑戦するのは地球規模課題ですから、地球に暮す人たちの考え方、生活、文化を知り、既存の境界を越えて情報や想いを共有し、連携することが大切であることを認識して欲しいと考えています。あらゆる意味で開かれた大学で学んだ皆さんには、これらを先導する者となっていけるはずで、大いに期待しています。

三番目は、「人間力」です。困難な時代を乗り越えるためには、新たな知の創造とそれを

具現化できる能力が必要です。皆さんは、学業生活を通して、基礎的な知識、高等教育を受けた者にふさわしい教養、そして高い専門力を身につけています。しかし、多様な課題の存在する社会においては、それらだけでは十分ではありません。複雑化・高度化した成熟社会では、知の創造だけでは解決できない、困難な決断と選択をしばしば迫られ、対立や争いにつながる場合も少なくありません。これらを乗り越えるためには、合理的思考の上に、失敗を恐れないチャレンジ精神と七転び八起き精神、誠実さや思いやり、勇気などが必要です。自分には何ができるか、何に貢献できるかを考えること、すなわち志や動機付けも必要です。加えて、社会の状況や相手の立場を思いやることのできる想像力とコミュニケーション能力は重要です。コミュニケーションは双方向性ですので、自主性、自立性ととともに相手への思いやりや共感、チームワークを大切にする資質に直結しています。つまり、こういった人間力こそが明日への希望となります。忘れもしない今回の大震災は信頼していた科学技術や社会システム・人智にも限界があることを明らかにしました。その困難から教職員とともに自立的に復興をとげ、加えて他の被災地へも手を差し伸べてきた皆さんには十分その資質が備わっていると信じています。皆さんには自立した人間力を発揮し、新しい時代の先駆者になることを期待しています。

最後の言葉は私自身の経験からです。学問はもともと世界基準で発展してきました。私も留学では多くのことを学びました。私の不注意で研究で失敗をした時のアメリカの上司の言葉は今でも忘れられません。普段から科学には非常に厳しい上司が、「誰にでも間違いはある」と声をかけてくれました。新しいことに挑戦する時には、失敗はつきものであり、一歩踏み出すためには勇気が必要です。皆さんも、この一言を思いだしていただき、失敗や変化を恐れずに新しい世界に挑戦し、挑戦する中から学び、感謝し、問題を解決し、未来を開拓して行ってください。

本学を卒業する皆さんの今後の活躍と挑戦を、社会は楽しみに待ち受けています。卒業してからの社会での体験は、楽しいこととともに、変化が大きいことや厳しさに戸惑い、そして失敗もあるかもしれません。一方で、それらの体験は皆さんの予想以上に実践的であり、専門的であり、緊張感のある中身の濃いものであり、皆さんに着実に実力を授け、大きな達成感を与えるものでもあります。新しい挑戦は皆さんの人生を必ず豊かにします。

最後になりますが、皆さんがそれぞれに新しい挑戦をすることが、「つくば」らしさを世界に発信し、新しい芽を伸ばすことにつながります。つくばの地を離れても、これからも同窓生ネットワークを通じて、ともに歩んでいきましょう。社会から見た大学の価値は、卒業する皆さんの価値そのものです。

卒業生の皆さんの門出を祝し、これからの益々の発展と活躍を心より祈念し、私の式辞といたします。

平成25年3月25日

筑波大学長 山田信博（代読 清水一彦）